

第3学年B組 音楽科学習指導案

授業者 小林 葉子
研究協力者 吉澤 恭子

1 題材名 はじめまして リコーダー ～シラソで おはなししてみよう～

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

音楽が流れると一緒に口ずさんだり、自然に体を揺らしたりするなど、音楽が好きな子どもが多い。低学年では、指の動きやタンギングに気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏したり、拍にのって友達とリズムをつないだりする経験をしてきている。3年生になり、これまでの階名譜からハ長調の楽譜になったことや、演奏する音域が広がったことなどから、読譜や運指など、技能面の個人差が大きくなりつつある。しかし、これから学習するリコーダーへの関心は高く、どの子どもも早く上手に吹けるようになりたいという意欲をもっている。

(2) 題材について

本題材では、音色や響きに気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏するという資質・能力を高めることを目指す。そのため、子どもたちが美しい音色に着目しながら、無理なく段階的にリコーダーの奏法を身に付けることを大切にす。

「リコーダーは歌う」（「いつも何度でも」、「小鳥のために」から「うそどり」「森ひばり」、「クラリネットをこわしちゃった」、「大きな古時計」）は、リコーダーの美しい音色と表現の豊かさや、リコーダーの種類や編成の違いによる音色や響きの違いを味わうことのできる鑑賞教材である。

教材「シシシでおはなし」は、シの音だけでできている。リコーダーで話すように吹くことにより、タンギングを意識できるようになる曲である。「ほたるこい」は、シ・ラを使った曲。「なべなべそこぬけ」は、シ・ラ・ソを使った曲。どちらも耳になじみのある単純な旋律で、すぐに演奏することができるため、一曲演奏したという満足感が得られる教材である。

音がシ・ラ・ソの3音に限定されていることは、短い旋律をつくって演奏することにも適している。「自分の旋律」への特別な思いが、美しい音色を意識した演奏に結び付くと考える。

(3) 指導について

本題材で育みたい資質・能力は「音色や響きに気を付けて演奏する」力である。そのため、リコーダーの美しい音色に着目し、息の出し方やタンギング、指づかいなどとの関わりをもとに考えるという「見方・考え方」を働かせた学習活動を、題材を通して繰り返し行う。

子どもたちは、この題材で初めてリコーダーと出会う。そこで、まず鑑賞を行い、リコーダーの美しい音色を聴き分けることができるようにする。その後、リコーダーの音で友達とあいさつし合う活動や、子どもたちにとって身近な曲の演奏、簡単な旋律づくりを行っていく。このように段階的に活動を積み重ねることにより、苦手意識をもたずに、楽しみながら、美しい音色での奏法を身に付けることができると考える。また、美しい音色にあこがれをもち、常に自分の音や友達の音に耳を傾け、きれいな音で表現しようとする気持ちを育てるため、ペアやグループ、全体での聴き合いの場を大切にする。

題材後半には、シ・ラ・ソの3音で旋律をつくったり、つくった旋律を友達とつないだりする。その旋律は、どの子どもにとっても特別なものである。一人一人の旋律への思いは、友達と旋律をつなぐことによってさらに高まり、美しい音色や響きを意識した演奏に結び付くものと期待している。リコーダーとの出会いによって、音楽表現が広がる喜びを十分に味わわせたい。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) リコーダーの美しい音色に着目し、息の出し方やタンギング、指づかいなどに気を付けてリコーダーを演奏することができる。 〈A-23・29〉

(2) リコーダーの音色や響きのよさを感じ取り、美しい音色を意識しながら、曲を聴いたり、音の出し方を工夫したりすることができる。 〈A-17・B-2・〔共通事項〕1〉

(3) リコーダーの音色や奏法に興味・関心をもち、音楽表現や音楽づくり、鑑賞の学習に進んで取り組もうとする。 〈ア・ウ・エ〉

4 題材の構想（総時数5時間） ※「見方・考え方」を働かせた学習活動

ことばでリズム ～リズムをつくってつなげよう～（2年）
 楽しくドレミ ～鍵盤ハーモニカで演奏しよう～（2年）

◎本題材で育む主な資質・能力
 音色や響きに気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏する。（A・29）

時間	学習活動 （・は予想される子どもの姿）	教師の主な支援	評価（本校の資質・能力との関連）
1	(1) いろいろな楽曲を聴き比べ、リコーダーの音色の美しさや種類による音色の違いを感じ取る。 ・ きれいな音でリコーダーを演奏したいな。	・ 今までに聴いたことのある楽器の音色と比較しながら鑑賞する活動を設定することにより、リコーダー特有の美しい音色への意欲が高まるようにする。	・ リコーダーの音色に興味・関心をもち、音色の美しさや演奏のよさに気付いて聴いている。 〈B-2・エ・〔共通事項〕1〉
学習課題 美しい音色で、リコーダーを演奏しよう。			
2	(2) 鍵盤ハーモニカの奏法と比較しながら、リコーダーの奏法を確かめ、シの音を吹く。 ・ タンギングするのは、鍵盤ハーモニカと同じなんだね。	・ 音色の違いに気付き、美しい音を意識して吹くことができるように、息の出し方や穴のふさぎ方などの例を複数示し、聴き比べる場を設ける。	・ リコーダーの音色や奏法に興味・関心をもち、美しい音を意識してリコーダーを吹こうとしている。 〈A-23・ア〉
3	(3) シ・ラの音で音遊びをしたり、簡単な曲を演奏したりする。 ・ シとラが吹けるようになったから、今度はソの音も吹きたいな。	・ 楽しみながらシ・ラの奏法を習得することができるように、シ・ラの2音でつくった4拍の旋律を友達とつなぐ活動を取り入れる。	・ 美しい音色を意識し、息の出し方や指づかいなどに気を付けてリコーダーを演奏している。 〈A-29・ア〉
4	(4) シ・ラ・ソの音でできている曲を演奏したり、短い旋律をつくったりする。 ・ 自分だけの旋律ができてうれしいな。友達とつないで演奏したら楽しいだろうな。	・ シラソを使って一曲演奏したという充実感を得て学習への意欲がさらに高まるように、耳になじみのある身近な曲を用意する。 ・ つくった旋律を何度でも演奏することができるように、記録する用紙を準備する。	・ 美しい音色を意識しながら、音の出し方を工夫してリコーダーを演奏している。 〈A-17・ア〉
5 本時	(5) 音色に気を付けながら、つくった旋律を友達とつないで演奏する。 ・ シラソをきれいな音で吹けるようになったよ。他の音にも挑戦したいな。	・ 音色に着目して互いの演奏を聴き合う場を設け、一人一人ができるようになったことを確かめる。また、今後リコーダーの音域を広げていくことへの意欲付けを図る。	・ 美しい音色を意識し、息の出し方やタンギングなどに気を付けてリコーダーを演奏している。 〈A-29・ウ・〔共通事項〕1〉

○本題材で働かせる主な「見方・考え方」
 リコーダーの美しい音色に着目し、息の出し方やタンギング、指づかいなどとの関わりをもとに考える。

歌とリコーダーのすてきな調べ

5 本時の実際 (5 / 5)

(1) ねらい

つくった旋律を友達とつなぐ活動を通して、美しい音色を意識しながらリコーダーを演奏することができる。
(A-29・ウ・〔共通事項〕1)

(2) 展 開

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
5分	① 既習曲をリコーダーで演奏し、本時の学習課題を確認する。 ・ 早く友達と旋律をつなぎたいな。	・ シ・ラ・ソの3音とも美しい音色で演奏できるように、息の出し方や指づかい等を確かめる。
学習課題 シラソの旋律をつないで、きれいな音で演奏しよう。		
15分	② シラソの旋律をグループでつないで演奏する。 ・ みんなでお話しするみたいにつなぐと、きれいな音でできるんじゃないかな。 ・ ソをきれいな音で吹くのは難しいな。穴をしっかりとふさがなくちゃ。 ・ Aさん、もう少し優しい息で吹いた方がいいよ。もう一回やってみて。 ・ 今の速さだと、指と息が合わなくて困るな。もう少しゆっくりにしてみない？ ・ リレーの順番はこれでいい？それとも、よびかけっこにする？	・ 一人一人が美しい音色で自分の旋律を演奏できるように、また、拍の流れにのってつなぐことができるように、演奏する速度にも気を配るよう助言する。 ・ 互いの音色やタンギング等を聴き、アドバイスし合いながら「シラソの曲を演奏する→演奏し直す」活動を繰り返し行うことができる場と時間を保障する。 ・ 演奏する順番に迷うことなく、どの子どもも安心して活動することができるように、色分けしたカードを用意する。
20分	③ 旋律をつないでできたシラソの曲を聴き合う。 ・ Bさんの音はとっても柔らかくてすてきだな。Bさんみたいに吹きたいな。 ・ Cグループはみんなきれいな音で、リコーダーでお話ししているみたいに吹いているね。私たちのグループも真似したいね。 ・ Dさんの音は全部つながっているから、舌を使って「ルールー」ってやるといいと思うな。 ・ Eさん、穴にすき間があるんじゃない？あんまり指に力を入れ過ぎない方がいいよ。 ・ Eさん、いい音に変わったよ。よかったね。	・ 美しい音色に着目して聴くよう、聴く観点を示すことにより、友達の音色のよさを認めたり、アドバイスしたりできるようにする。 ・ アドバイスを受けて、タンギング等に気を付けながら演奏し直した友達の音色の変化を全体で共有することにより、よりよい音色への意識を高めていく。 ・ 拍の流れにのって演奏することができるように、必要に応じて、打楽器の拍打ちで支援する。
優しく息を出したり、舌を上手に使うなど、美しい音色を意識した音の出し方でリコーダーを演奏している。 (A-29・〔共通事項〕1・ウ) (演奏, 発言内容)		
5分	④ 本時の学習をふり返る。 ・ シラソをきれいな音で吹けるようになってうれしいな。今度は、もっと他の音にも挑戦したいな。	・ 一人一人が美しい音色を意識して演奏できるようになったことを称賛し、今後音域を広げていくことへの意欲付けを図る。